事業所名：びろうじゅおおよど

作成日： 平成 27年 7月 21日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	ベッド四点柵や車いすの安全ベルトなど、身体拘束にあたるケースに対して、代替案を示すことができていない。	職員の意識の変革を図り、安易な方法で事故を防ぐのではなく、入居者様の目線で事故を未然に防ぐ方法を取り入れることができるようになる。	低床ベッドを使用している方が多いので、柵ははずし、床にマットを敷くなどの対応。安全ベルトは、転落リスクの高い移動時などに限り、基本は使用しない方向で対応する。フロア入り口のスリーキーも開放できるようスタッフの配置の工夫、常に誰かが9名の所在を把握できるよう職員間で密な声掛け、連携を行う。	6ヶ月
2	35	災害時の対策が不十分である。年に2回行っている避難訓練ももっと実際に活かせるものでなければならない。ハード面でも課題が多く、早急な対応が求められる。	実際に活きる避難訓練等、シュミレーションを行い、全職員が常に意識の中にもつことを心がける。ハード面では、優先順位をつけ、できることから改善を図ることができる。	消防署職員の協力を得て、年に2回の避難訓練のシュミレーションを実際に活きるものにする。様々な箇所から火災が起こる可能性を考え、シュミレーションし、それを全職員が常に意識の中に入れておく。ハード面の改修は、予算に組み入れ、優先順位をつけ、計画的に行っていく。	6ヶ月
3	23	個別のレクリエーションがあまり行えていない。入浴の希望や排泄の確認の問題など、入居者様のご意向や要望をケアに反映できていない場面がある。	ゆとりのある一日を送れるようスケジュール調整を入居者様の視点で考えることができる。	ゆとりある職員体制の確保や有償ボランティア、ご家族も含め、びろうじゅのケアにかかわってくださる方を増やす。入居者様のご意向や要望等を吸い上げることができるよう普段の何気ない会話や表情、しぐさなどもよく観察し、ケアに反映させていく。	6ヶ月
4	11	内部・外部研修が計画的に行えていないことと、職員のステップアップ制度が明確でない。	計画的に研修に参加することができる体制ができる。ステップアップ制度に関しては、法人の問題ととられ改善を図っていく。	必要な研修項目を挙げ、研修年間計画を立てる。研修に参加できるだけの余裕のあるシフト体制を構築する。研修参加者は伝達研修を行い、参加したものだけでなく、全職員のレベルアップにつながる仕組みづくりを考える。ステップアップ制度に関しては、現場の状況を法人理事会等に報告し、法人内での仕組みづくりとして作り上げていく。	6ヶ月
5	26	介護計画書の期間が12か月に設定されており、期間が長い。	基本、6か月のプラン作成と状態の変化に応じた計画書作りが行えるようになる。	ご家族に参加していただく評価会議は今まで通り1年に1回行い、6か月目や状態が大きく変わった時は、計画作成担当者と入居者担当と管理者で話し合いを行い、計画書の評価、修正を図り、新しい計画を立案する。	6ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。